



# 県政報告 Vol.28

2024.8月発行



## 愛知県議会議員 神谷まさひろ

「日記で綴る県政報告Vol. 28」をお届けします。今回は6月14日(金)から7月3日(水)まで20日間の会期で開催された6月定例愛知県議会の内容の他、愛知県と関係のある政策について刈谷市政の内容も紹介しています。ぜひともご一読頂き、県政を少しでも身近に感じて頂けたら幸いです。



6.20 木

### 「副次的な籍」=インクルーシブ教育が一步前進します

教

育委員会に対する一般質問の中で「副次的な籍の導入」という言葉が出て来ました。

「副次的な籍」とは、インクルーシブ教育推進の有効な方策の一つで、障害のある児童生徒が、居住地の小中学校と特別支援学校の双方に籍を置くことで、地域の学校における「障害のある子供も、ない子供も共に学ぶことができる機会」と、特別支援学校における「専門的な教育を受けることができる機会」の両方を実現をするしくみです。

副次的な籍の導入に向けたモデル事業は、初年度の今年度は学識経験者・小中学校長・特別支援学校長などを構成員とする検討会議で、先行導入している他県の取組を参考にしながら本県としての事業方針等を策定をし、次年度以降モデル校において実践を進め、県全体での取組につなげていけるよう検討するという答弁でした。

私が市議会議員に当選間もない平成12年、「安城養護



学校(特別支援学校)のマンモス化解消」を訴えた一般質問において、養護学校に子供が通うある保護者の手紙を紹介して

このように発言したことがあります…

『一生懸命養護学校のマンモス化を解消してほしい、新しい養護学校を建設して欲しいと運動しているお母さんから養護学校がふえることが本当にいいことなのかとふと思ってしまいましたという書き出しで始まる便せん3枚の1通の手紙をいただきました。

養護学校というのは、本当に世間から隔離された一般に知られていない学校です。そして、そこに通う生徒たちも学校と家を往復するだけで地域には知られていないのです。その子のためにとって、多くの親、養護学校、教育委員会は養護学校が最適であると信じて、選んで通っていますが、それがその子の将来、その子が生きていく世の中にとって本当にいいのかどうか疑問です。養護学校はその子に合った教育をしてくれはするんですけども、卒業後の社会は果たしてその子に合わせてくれるような社会でしょうか。小さいときから障害のある子もない子も一緒に暮らしていれば、きっといい世の中になっていくと思います…』

時間は掛かってしまいましたが、「副次的な籍の導入」によって、手紙を下されたお母さんの思いが少しは実現し、いい世の中にちよっぴり近づくことができるのかなと期待しています。

6.26 水

### 委員会で「水道水におけるPFAS(有機フッ素化合物)について」一般質問しました

私

が所属する建設委員会が開かれ、一般質問において「水道水におけるPFAS(有機フッ素化合物)について」取り上げました。

PFASに対するこれまでの愛知県の対応は答弁によると…

- PFOS及びPFOAは水質管理目標設定項目であり、測定する義務はないが、自己水源を保有する水道事業者28と用水供給事業者1の合計29事業のうち、26事業が2023年度までに測定を実施。
- その中で、北名古屋水道企業団が原水及び浄水、春日

井市が原水で暫定目標値50ng/Lを超過していた。

- 北名古屋水道企業団は、浄水で暫定目標値を超過した配水場の配水を停止し対応した。
- 北名古屋水道企業団の一部と春日井市では、浄水で暫定目標値を超えておらず給水を継続している。
- これまでPFOS及びPFOAの測定を行ったことがない水道事業者に濃度の把握に努めるよう働きかける文書が国から発出されている。
- 愛知県においても、濃度の把握に努めるよう水道事業者に働き掛けを行っている。未測定の上3事業者も2024年度に測定を予定している。

これまで厚生労働省が所管していた水道整備・管理行政の事務のうち水道事業の認可等の事務が令和6年4月1日から国土交通省に移管したことに伴い、愛知県において

も保健医療局から建設局に移管され、従来の「下水道課」を「上下水道課」に名称変更され、課内室として「指導管理室」が設置されました。



保健医療局から建設局に移管されたことにより、老朽化対策・社会資本の整備は勿論のこと、県民が常に安心して水道水を利用できるよう、適切な水質管理にも取り組んでいただくことを最後に要望致しました。

## 6.28 金 ▶ 来年4月から医療費が入院・通院共に18歳年度末まで無料になります

**刈** 谷市議会の6月定例会が本日閉会しました。今回私が注目したのは、来年4月から医療費を入院・通院共に18歳年度末まで無料にするための、条例改正案が可決され、システム改修のための補正予算約1400万円が計上されたことです。

しかし、今回は愛知県としては拡充することなく、刈谷市が独自に年齢引き上げの政策を打ち上げて下さったのです。これにより刈谷市としての負担額は約1億2000万円UPすることになります。結果だけ見ると「公約の1つが実現」なのですが、県議の立場から言えば「うれし恥ずかし」の結果オーライですね。

私は昨年の県議会議員選挙の公約で「18歳年度末までの医療費無料化」を掲げていましたから、実現することには大歓迎なのですが、「公約が実現します」と胸を張っては言えないのです。というのは、この子供医療費の無料化の財源はどうなっているかという点、愛知県が「入院は中学卒業まで」「通院は小学校入学前まで」の部分の2分の1を負担し、それ以上に拡充する部分は全て市町村が負担しているのです。

私はその愛知県の負担部分を拡充することにより(年齢を引き上げるか、2分の1という負担割合を引き上げる)、それぞれの市町村がそれに呼応して対象年齢を引き上げることを狙った公約だったので。



- 1 私たち大人の使命は子どもたちに良い社会を残すこと
- 2 県政や議会、自らの活動内容を積極的に発信  
(県政報告レポート・ホームページ・Facebook・街頭など)
- 3 障害者・高齢者・子どもなど弱い立場の方に優しい政治

- 給食費の無料化
- 有機農業、オーガニック給食の推進
- 18歳年度末までの医療費無料化 (通院・入院共に)
- 少人数学級、少人数授業の拡充
- 重度重複身障者の介護負担の軽減、通所施設への支援の充実
- ヤングケアラーへの支援
- 障害者の就労支援を強化
- 私学助成の拡充
- 認知症対策(オレンジタウン構想)を推進
- 不登校を経験した子供の教育機会を確保
- 大学進学のための給付型奨学金の創設
- 子ども食堂を中心とした食糧支援の拡充

昨年の県議会議員選挙での選挙公報

## 7.19 金 ▶ 刈谷市から愛知県への要望

**本** 日、刈谷市から愛知県に対する社会資本整備の要望会が行われました。要望内容の一部を紹介します…

- ②名古屋岡崎線の整備促進
- ③小垣江安城線の整備促進
- ④名古屋碧南線の橋梁架け替え事業

(1)「モノづくり」を支え、国際競争力を強化する新たな広域道路ネットワークの整備と既存ストックを有効活用した道路機能強化

- ①高規格道路名古屋三河道路の早期実現

(2)市民の生活と地域産業を支える河川整備

- ①二級河川逢妻川改修事業
- ②二級河川前川水系の治水安全度の向上
- ③二級河川の適切な維持管理の実施(浚渫・樹木伐採)

**(3) 出かけやすく滞在快適性の向上につながる、にぎわいと魅力があふれる「元気・笑顔・希望」のまちづくり**

①『駅まち空間』整備にむけた取組への支援

- ◎JR刈谷駅総合改善事業への支援
- ◎優良建築物等整備事業への支援(刈谷駅・刈谷市駅)

②魅力あふれる公園づくり事業への支援

この中の道路整備計画について、名称だけではどの道路のことかよく判らないのではないかと思いますので、少し詳しく説明します…

①高規格道路名古屋三河道路

岡崎から→安城→刈谷→境川を渡り→東浦町→知多市→名古屋港を結ぶ高架の道路です。一昨年4月に重要物流道路に指定され、優先整備区間としては「西知多道路～名豊道路(国道23号)」です。

②名古屋岡崎線

名古屋市緑区の国道302号から豊明市・刈谷市・豊田市・安城



市を経て岡崎市の国道1号に至る延長26.3kmの主要幹線道路です。刈谷市ではハイウェイオアシスの北側を通っています。

③小垣江安城線

小垣江のカーマの信号から東に向かうと国道419号で突き当りになってしまいますが、これを更に国道23号の高槻北にまで伸ばす計画です。

④名古屋碧南線

司町の交差点から東浦方面に向かう際に通る4つの橋(緒川橋・境川橋・逢妻橋・市原橋)の架け替えと、連続した歩道を設置する整備です。

また、刈谷市駅周辺の再開発については写真で紹介します。



私もこれらの事業の推進に議員としての立場で微力ながら尽力します。

**7.28 日 大相撲名古屋場所 来年は新しい愛知県体育館で開催です**

**昨**日の新楽に続き本楽の今日、再び万燈祭の会場に行きました。大村知事と共に各町内を激励。そして万燈コンクールで最優秀となった寺横町へお祝いに。氏子7町の皆さん、新楽・本楽と2日間お疲れ様でした。

その大村知事ですが、この会場に来る前に愛知県体育館(ドルフィンズアリーナ)において大相撲名古屋場所千秋楽の表彰式に出席しておられ、優勝決定戦の末、見事10回目の幕内優勝を果たされた横綱照ノ富士関に知事賞を贈呈されていました。

その副賞としては名古屋コーチン(肉100kg、卵1,000個)、花束(あいちの花 合計200本)、みかわ牛のロース肉1頭分(約50kg)、うずら卵(10,000個)が贈られました。これまでうずらの卵は贈られていなかったのですが、2月に

福岡県において給食で出されていたうずら卵を小学生がのどに詰まらせて死亡するという不幸な事故が起きたため、給食での利用が敬遠される状況になりました。加えて物価高騰等により業者は大変厳しい経営状況にあります。そこで、愛知県産のうずら卵を全国にPRする目的も兼ねて今回初めて贈ることになったのです。

そして、1965年から続いた愛知県体育館(ドルフィンズアリーナ)での大相撲は本日をもって幕を閉じました。来年からは、現在建設が進む世界

トップレベルのアリーナ「IGアリーナ」での開催となります。ご期待ください!



新体育館「IGアリーナ」のイメージ図

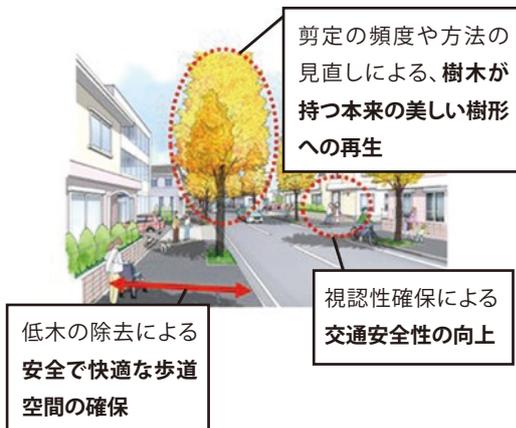
## 8.1 木 『街路樹の適正な管理』について進捗状況の説明を受けました

**財**

政課よりすべての局に関する「主要事業の進捗状況等について」の説明がありました。その中から『街路樹の適正な管理』についてお知らせ致します…

- 愛知県では2021年度から幅員が狭い歩道を中心に低木の撤去を進めており、全体の約3割の撤去が昨年度完了しました。今年度から縮減された管理費を活用して、従来は年1回実施していた植樹帯内の除草を年2回対応とすることにより、快適な歩道空間の確保を図っています。
- また、大木化により視認性を悪化させている中高木、老朽化により倒木が懸念される中高木についても、順次撤去を進め、交通安全の向上を図っています。
- 今年度は、中高木の適正な管理計画の策定を進め、街のシンボルとなる道路を中心に、選定頻度を増やすなど、樹木が持つ本来の美しい樹形に整えて、街路樹の再生を図って行きます。

樹木を撤去・伐採してしまうため「街から緑をなくしてしまうのか」といった意見があることは承知しています。しかしこの事業を始めた2021年当時、愛知県では中高木約8万本、低木約340万本の街路樹を管理しており、雑草の繁茂による通行障害など交通安全面、樹形の悪化による景観面、老朽化した中高木の倒木といった防災面の課題があり、限られた予算の中でそうした課題を解決するには、こうした手法を取らなければ解決できないのではないかと私は思っています。



## 8.2 金 都市計画審議会 刈谷駅南側エリアの再編計画を決定

**令**

和6年度第1回刈谷市都市計画審議会」に委員の一人として出席しました。議案は「西三河都市計画公園の変更」についてです。

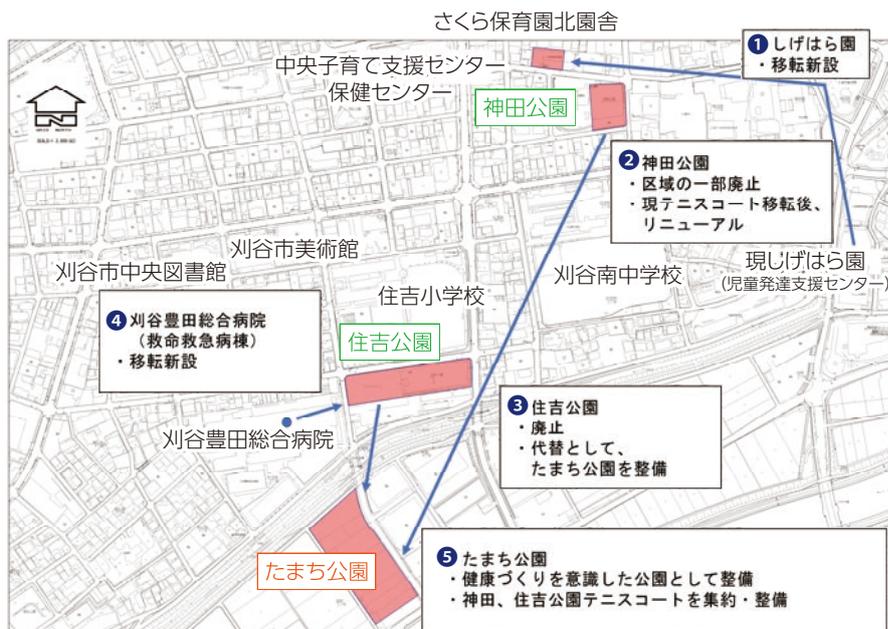
これは、刈谷駅南側エリアの公共施設等の機能や配置の再編に伴って、現在ある神田公園の一部と住吉公園の機能を、新たに街区公園として追加するたまち公園に集約するための議案です。

再編計画全体で説明しますと…

- ①現在、心身障害者福祉会館南側にある[しげはら園(児童発達支援センター)]をさくら保育園北園舎の所に移転します。
- ②[神田公園]のテニスコートは新しく出来る[たまち公園]に移転した後、公園をリニューアルします。
- ③[住吉公園]を廃止します。代替として[たまち公園]を整備します。
- ④廃止した[住吉公園]の跡地に[刈谷豊田

総合病院の救命救急病棟)を移転新設します。

- ⑤新設される[たまち公園]は、神田・住吉公園テニスコートを集約、健康づくりを意識した公園として整備します。



図面の文言については判り易くするために、都市計画審議会資料を一部変更してあります

